



旅 教えて! GIRL



窪 咲子(くぼ さきこ)

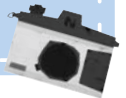
1987年生まれ。編集、ライター。出版社を経て、世界一周の旅に出发。トラベルライターとして仕事をしながら世界中を旅する。今までに訪れた国は65カ国。地球の歩き方WEBサイトに

世界各国で出会ったイケメンのストリートスナップを掲載する『世界イケメンハンター』を執筆。帰国後は「マツコの知らない世界」や「アイム冒険少年」などメディアにも出演。著書に『GIRL'S TRAVEL』(ダイヤモンド社)、『恋する世界一周』(イカロス出版)。



oshiete

いつも楽しみにしています! 窪さんは「イケメンハンター」としても有名ですが、どの国のイケメンが一番カッコよかったですか? 教えてください!



アイドル雑誌の編集を経て、フリーになり世界一周の旅をするとき、なにか自分らしいことができないか…と考え、思いついたのが世界中で出会ったイケメンのストリートスナップを撮影する企画でした。しかし、旅行ライターとしてはコネもツテもなく、いろいろな会社に企画書を送りまくるも、相手にしてもらえずに落ち込んでいたとき、出会ったのが『地球の歩き方』の編集部の方でした。企画をおもしろがっていただき「世界イケメンハンター」というキャッチフレーズとともに『地球の歩き方』のWEBサイトで企画がスタート。



“イケメンハンター”なんて聞くと、肉食系だと勘違いされることも多いですが、1か国目の韓国では、知らない土地で、しかも英語で話しかけるとハードルの高さから、道を行ったり来たり、なかなか話しかけられず数時間モジモジ。やっとの思いで『地球の歩き方』片手に、道を聞かふりをして話しかけたことを今でも覚えています。取材の回数を重ねていくごとに、店員さんや彼女と一緒に歩いているイケメンは声をかけやすいことに気づいたり、「あなたをこの国の代表のイケメンとして紹介したい」とお願いすると、うれしそうに取材を快諾して



くれるということを見出し、テレで表情が硬くなってしまったときは、「かっこいい!」と褒めまくって、撮影していました。一口に「イケメン」といっても、好みの問題なのでその定義が難しく、私の好みばかりになってはいけないと思い、その場にいた2人以上が「イケメン」だと言ったら声をかけ、撮影するというルールも作りしました。



前置きが長くなりましたが、ご質問いただいた「どの国のイケメンが一番か。目鼻立ちがくっきりしたイケメンが多いネパールやどこを歩いてもモデルのようなイケメンばかりのヨーロッパと悩みますが、私が一番イケメンが多いと思ったのは、ブラジルです! と、いうのも多民族国家のブラジルには、ヨーロッパにいそなタイプからラテン系の男性まで、イケメンの幅が広いんです。サッカー選手で例えるとカカのようなモデルタイプもいれば、ネイマールのような

やんちゃな雰囲気男性まで。おまけにビーチを歩けば割れた腹筋、あつい胸板をもつマッチョ率高し! セクシーさも兼ね備えたイケメン天国なのです。イケメンの写真を撮る際は声をかけて「あなたをこの国を代表するイケメンだと思う」とお願いすれば、きっと快く撮影させてくれるはずですよ。



スーパーの野菜コーナーで「産地直送」というフレーズを見ると、思わず手に取りたくなる方も多いのではないのでしょうか。ハワイ・オアフ島にあるレトロな街並みのハレイワ・タウンでひときわ目立つ赤い建物『Farm To Barn Cafe&Juicery』は、産地直送どころか、お店の裏の畑でとれた食材を調理した料理が食べられるという贅沢なレストラン! 素材の魅力がギュッとつまった料理はおいしいだけでなく、見た目の美しさにもこだわっており、オープンスペースになっている店内はあっという間に埋まる人気店。お店の前は芝生のスペースになっており、ピクニック用のシートやサッカーボールが用意してあったり、訪れれば心身ともに元気になれるオアシスのような空間でした。

最近の
旅
ニュース





つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.18
まとめてダウンロード



Sustainable Tourism P20



インタビュー P02
コムアイ (水曜日のカンパネラ)
「迷惑をかける勇気」が、
旅をもっと楽しくする。



教えて! 旅GIRL P22



Youth Hostel Pick up P08
世界自然遺産 屋久島
ここにしかない自然と文化を育む
島とゲストの架け橋を目指して
屋久島ユースホステル



松島むうの晴れときどき旅びより P23



Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12
今後、見られなくなる可能性あり
今すぐ行きたい世界の絶景
■近い将来、遺跡と化するであろう「死に行く町」
■コロナ禍な街並みを、クラシックカーが駆け抜ける
■世界最大のサンゴ礁群に忍び寄る危機的状況
■ここ50年で形が激変! 死海の今
■100年で1km以上も! 衝撃的なアルプスの氷河の後退
■遺跡背後の山を登り、絶景の展望台へ
■世界から抜粋! おもしろユースホステル

発行所: 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島眞
〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内
印刷・製本: サンメッセ株式会社
※本誌の情報は2019年9月20日現在のものです。
変更になる場合がありますので、お出かけになる前に現地にお確かめください。
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。